

税関における先端技術の活用



特集

鈴木 文浩

SUZUKI Fumihiro

関税局税関調査室長
平成4年度入省



Z世代[※]のあなたと切り拓く 「AIシン時代」

令和元年、税関は1年間で3トンを超える覚醒剤等の密輸を摘発しました。人口が1億2千万人のこの国で、仮に一人ひとりがこれを1回分ずつの使用量で乱用したとすれば、なんと1億人分の量に相当します。つまり、赤ちゃんからお年寄りまでほぼすべての国民が乱用できる量なのです。そして、これらの密輸を許していたいなら、乱用者は勿論のこと、家族をはじめ周りの人たちの幸せをも壊し、多くの笑顔を失うことになったでしょう。

今、世界的に新型コロナウイルス感染症が流行し、ヒトやモノの流れは大きく様変わりしています。日本においても海外からの入国者が激減する一方、国際小口貨物等は増加しており、それに合わせて密輸の手口も変化しています。私たち税関・税関は、職員一人ひとりが培ってきたノウハウに加え、AI等先端技術も積極的に駆使しながら全力で密輸を阻止していかなければなりません。そして、そのために私たちの挑戦は始まっています!

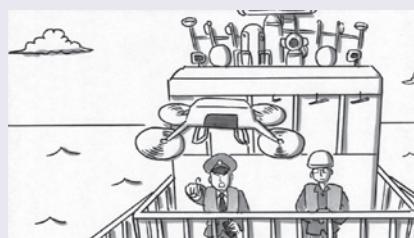
挑戦! シン ビッグデータ解析で「深」リスク分析

税関は輸入者等から、貨物の品名や重量、輸出入者の氏名や住所等、多くの情報を得ています。税関にはこれらの情報の蓄積があります。データサイエンスの観点から見れば、正にビッグデータ。私たちはこれをAIに学習させ、より「深」くリスク分析を行う実証実験を始めています。将棋で棋士が思いもつかぬ最善手をAIが導き出すように、これまで気づけなかった密輸を摘発できるようになるかもしれません!



挑戦! シン ドローン活用で「新」監視取締り

2050年には日本の人口は1億人を切り、人口も東京などの一部の地域に集中することが予想されています。そのような中、人口の少なくなった地域の海岸線等において狙われる密輸を如何に阻止できるかが問われています。その一つの解決策として、ドローンを活用する「新」しい監視取締りの実証実験も始めています!



挑戦! シン 顔認証で「真」ワンストップ・ワンスオナリー

空港では顔認証を利用したEゲートの配備を進めています。航空会社から事前に入手した旅客の情報等から密輸等のリスクが低いと判定された人は、税関職員との対面による審査や検査なしにEゲートでスムーズに税関を通過できるようになったのです。そして「真」のワンストップ・ワンスオナリーの実現に向けた更なる挑戦も始めています!



他にも様々なAI等先端技術の活用や、世界初となる取締・検査機器の開発に向け果敢に挑戦し続けています。詳しくは、令和2年6月に、税関行政の特命事項を担う税関調査室が中心となって、税関・税関の中長期ビジョンとして取りまとめた「スマート税関構想2020」をご覧下さい。そして、YouTube「【鉄拳×税関】守る引き継ぐ私たちの暮らし」で感じて下さい。20年先、30年先を見据え、AI等先端技術も活用しながら、より安全で豊かな社会を実現させようとする覚悟が込められています。そこにはあなたも含めたみんなの笑顔があふれているはず。

データサイエンスを学んでいたら勿論のこと、Z世代のあなたとなら、多様なAI等先端技術を取り込み、使いこなすことで、更なる笑顔をきっと守ることができる!

「AIシン時代」の可能性は無限大!

さあ、AIで「シン」を究めて豊かな未来を切り拓こう!
みんなの笑顔のために!

※Z世代:1996年から2010年頃の生まれで、生まれた時にはデジタル機器やインターネットが存在し、日常的にそれを利用してきたデジタルネイティブの世代(諸説あります)